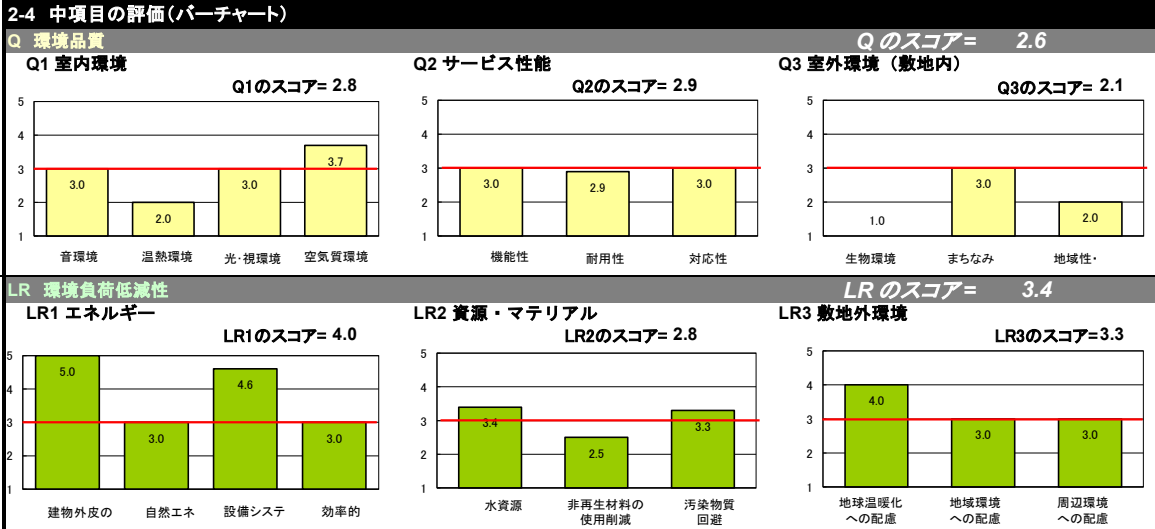
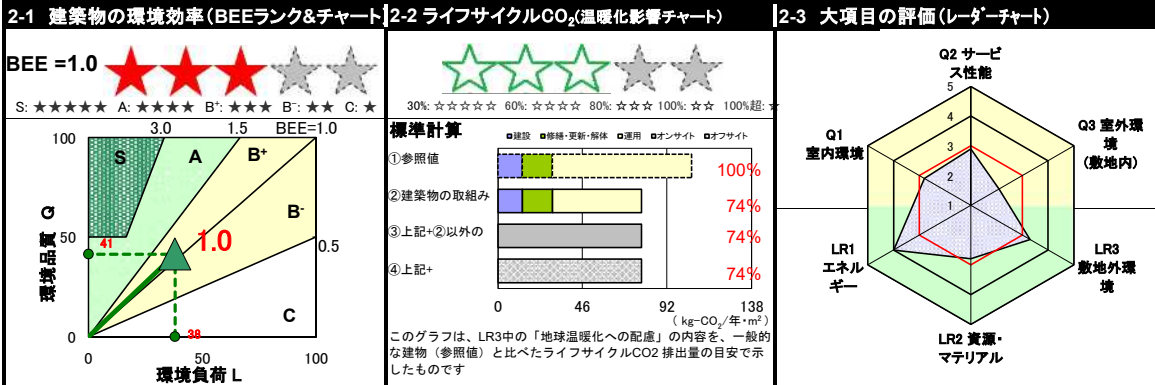


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	TOSHO BLDG	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊田市栄町7丁目6-2、6-5、6-6、6-7、6-8、6-9、6-10	構造	RC造
用途地域	商業地域、第一種住居地域	平均居住人員	260 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年5月10日
敷地面積	2,090 m ²	作成者	石川 春乃
建築面積	1,041 m ²	確認日	2024年5月30日
延床面積	2,969 m ²	確認者	石川 春乃



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.0	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.7	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
TOSHO BLDG

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.40			2.8
1 音環境					0.1	3.0	0.15			3.0
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.40		3.0	
1.2 遮音					0.4	3.0	0.40			
1		開口部遮音性能				3.0	0.60		3.0	
2		界壁遮音性能				3.0	0.40		3.0	
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-		3.0	
4		界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-		3.0	
1.3 吸音						3.0	0.20		3.0	
2 温熱環境					0.3	2.0	0.35			2.0
2.1 室温制御					0.5	3.0	0.50			
1		室温			3.0	3.0	0.38		3.0	
2		外皮性能			3.0	3.0	0.25		3.0	
3		ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.38			
2.2 湿度制御					3.0	1.0	0.20		3.0	
2.3 空調方式					3.0	1.0	0.30		3.0	
3 光・視環境					0.2	3.0	0.25			3.0
3.1 昼光利用			資料①-1昼光率		0.3	3.0	0.30			
1		昼光率			3.0	3.0	0.60		3.0	
2		方位別開口					-		3.0	
3		昼光利用設備			3.0	3.0	0.40		3.0	
3.2 グレア対策					0.3	3.0	0.30			
1		昼光制御			5.0	3.0	1.00		3.0	
3.3 照度					3.0	3.0	0.15		3.0	
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25		3.0	
4 空気質環境					0.2	3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策					0.5	4.0	0.50			
1		化学汚染物質		A-2仕上表:規制対象外建材の全面利用	3.0	4.0	1.00		3.0	
4.2 換気					0.3	3.6	0.30			
1		換気量			3.0	3.0	0.33		3.0	
2		自然換気性能		資料①-2有効開口面積が床面積の1/15以上	3.0	5.0	0.33		3.0	
3		取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33		3.0	
4.3 運用管理					0.2	3.0	0.20			
1		CO ₂ の監視			3.0	-	-			
2		喫煙の制御			3.0	3.0	1.00			
Q2 サービス性能						-	0.30		-	2.9
1 機能性					0.4	3.0	0.40			3.0
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	3.0	0.40			
1		広さ・収納性			3.0	3.0	0.33		3.0	
2		高度情報通信設備対応			3.0	3.0	0.33		3.0	
3		バリアフリー計画	独自	資料②人まち条例整備項目表	3.0	3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性					0.3	3.0	0.30			
1		広さ感・景観 (天井高)			3.0	3.0	0.33		3.0	
2		リフレッシュスペース			3.0	3.0	0.33			
3		内装計画			3.0	3.0	0.33			
1.3 維持管理					0.3	3.0	0.30			
1		維持管理に配慮した設計			3.0	3.0	0.50			
2		維持管理用機能の確保			-	3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性					0.3	2.9	0.31			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48			
1		耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80			
2		免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.1	0.33			
1		躯体材料の耐用年数				3.0	0.23			
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23			
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09			
4		空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08			
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		K-01空調特記仕様書:冷媒銅管、P-1衛生特記仕様書:VP利用		4.0	0.15			
6		主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23			
2.4 信頼性					0.1	2.6	0.19			
1		空調・換気設備			3.0	1.0	0.20			
2		給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20			
3		電気設備			3.0	3.0	0.20			
4		機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20			
5		通信・情報設備	②		3.0	3.0	0.20			

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				-	3.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			資料①-1: 壁長さ比率	3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	独自③		資料⑨外構図・緑化指数等算定シート	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			資料⑨外構図・緑化指数等算定シート	-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.67	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	3.0	4.6	0.30	-	-	-	4.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			P-3衛生設備器具表、資料④節水便器	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自		-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			3.0	3.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			資料⑤MSDS壁紙接着剤ルーアマイルド	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			矩計図・資料⑥吹付硬質ウレタンフォームA種1=ノンフロン断熱材ODP-0	-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			K-02空調設備機器表、資料 新冷媒R32利用	3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	①		ライフサイクルCO2排出率74%	-	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			資料①-3、③気象データ豊田 資料⑦卓越風向図	-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		資料⑧外構図より適切な量と位置に駐輪・駐車スペースを確保	-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自			-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自			-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
TOSHO BLDG

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	2.7
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用

(評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=

重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 TOSHO BLDG

計画上の配慮事項	
総合	住宅街に立地する1階の一部が店舗となる事務所ビルである。周辺は学校、病院、公園など生活環境に関わる施設が多くあり、地域住民が親しみやすい建築物を目指す。建築物単体では、省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	事務所の執務環境を考慮し、開放可能な開口部を多く設けることで自然換気性能を確保、また遮音性の確保や採光による昼光率向上を実現した。
Q2 サービス性能	建物利用者のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内植樹など緑地計画や景観に関しては、建物配置計画による制約の中で、量の確保が十分といえない。一方、防犯性の観点からは見通しの良いフェンスや防犯カメラの設置等、周辺環境に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー	建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、建築物の1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	再利用可能な部材、リサイクル材の利用に関しては十分な取り組みとは言えないが、有害物質を含まない建築材料については積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	周辺は住宅街、学校、病院、公園など、地域住民が利用する施設が多くある。事務所の1階に店舗部分を設け、周辺住民や地域に開けた建物を目指した。用途上、廃棄物の保管スペースや駐車場の台数確保など、建物利用者の日常使いがスムーズになるよう配慮した動線を検討した。
その他	